



Kanie Style

名古屋から10分で行ける、 ちよつとスローな、お散歩タウン

名古屋駅から、電車で数分のベッドタウン。

そんなに田舎じゃないけれど、それほど都会なわけでもない。

クルマで走れば、あっという間。

すぐに通り過ぎてしまうサイズのまちは、

広くはないけど小さくもない、ジャストサイズなミドルタウン。

ここでは歩いたり、自転車でのんびり走るくらいの

ナチュラル・スピードだと、色々なものが見えてくる、感じられるようになる。

よく見てみると、歴史も文化も伝統も、あるけどそんなに主張しない。

淡々とした空気感と、ゆっくり流れているように感じられる時間。

あんまり本格的じゃないけれど、ちよつとだけスローでほっとする。

押し付けられないし、押し付けられない、心地いいスタイルで散歩・散策できる。

時間に追われる忙しい日常から離れて、

休日はずっとたりとした時間が流れるまちへ。

歩いてみる ～お散歩ウォークのすすめ～

知らないまちを歩いてみる。

自動車だと一瞬で通り過ぎてしまう短い距離でも、歩いてみるといろいろなものが見える。発見がある。広い空、ゆったりした川、古い橋、道端の花、流れる風。空気までしっかりと感じられるのがお散歩ウォークのいいところ。



自転車散歩 ～お散歩サイクリングのすすめ～

のんびり走って、気になるところがあったらすぐ寄り道！
店先の古い看板や、小さな路地、水辺の風景。
お散歩サイクリングの醍醐味は、行き先にもコースにも、そして時間にも、縛られないこと。
大事なことはその時の気分次第で、
行きたいほうへ、見たいほうへ。



あなた流に、楽しむお散歩。



Kanie Style

まち、川



蟹江と言えば水郷。6本の川が流れるまちは、どこへ行っても水辺の風景が心を和ませてくれる。昔の漁師まちの面影を感じさせる小さな路地や街道。祭りを伝承してきた古いまち。まち並みと、その中に溶け込んだ神社やお寺、小さな祠、古い大木などが、どこか懐かしくてホッとさせる風景を創り出している。

ちょっとスローで、ちょっとレトロで、
ちょっとノスタルジックな 日帰り旅行。

川：水辺の風景

蟹江には6本の川が流れる。
川で育まれてきたまちを行く。



水郷の風景 ～蟹江川～
Discover and experience KANIE.

広い川の流れを見ながら
顔を上げると、空も広い。
名古屋からたった10分の町に、
こんなに広い空と川があつんだ。
「現在（いま）」という時は、
悠々と目の前に横たわっていた。

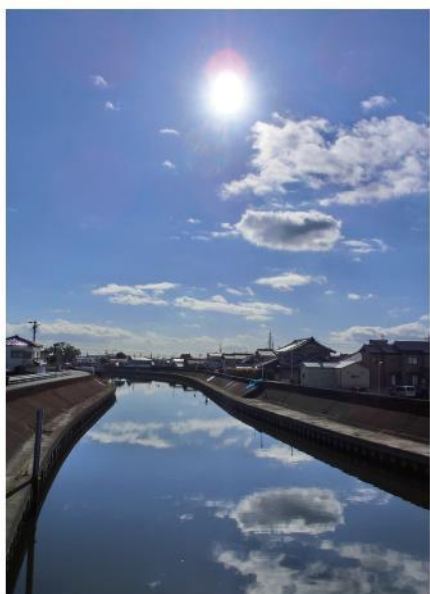


ゆるやかに流れる川との暮らしを
生き物たちも楽しんでいる。
のんびりと川辺にたたずむカモの姿に、
ちよつと優しい気分になった。



堤防では猫の親子が仲良く
ひなたぼっこ。

川面に映る雲がゆっくりと
泳いでいくのを眺める。贅沢な時間。



昔は船の往来もたくさん
あつたみたい。
今もその面影が残る水辺が
多く残る風景。



この御蔭橋は、祭船が
通る時には
跳ね上げられるんだって。



歴史と伝統

蟹江には神社仏閣が多い。
生活の中に溶け込んでいる歴史が見える。

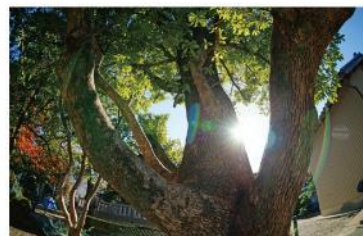


日常の中にある文化に触れる
Discover and experience KANIE.

堤防沿いに。細い路地の先に。
散歩をしていると、不意に目に入る
神社やお寺、鎮守の森。そして古い大木。
ふと立ち寄って、お参りしたり、
その由来を知るのも楽しいひととき。



盛大な神事の日もいろいろ、
静かに楽しめる「普通の日」もいい。
その日たまたま出会った神様に、
何でもない今日を感謝する。
心穏やかになれる、そんなまち歩き。



「お参りは、お願い」ことを
するためじゃなくて、
感謝を伝えるものなのよ」
そう教えてくれたのは誰だっけ。



嵐の日に蟹江に漂着した
船の神様が祀られている神社や、
浜辺に打ち寄せられた木を
霊木として彫られた仏像など、
川から海へとつながるまち
ならではのエピソードも多い。



蟹江の四季

春、夏、秋、冬
まちと自然が調和する風景



季節の空気を感じて
Discover and experience KANIE

冬の蟹江は、清々しい。
ピンと澄んだ冬の空気の中
で、はるかに見える山々と川。
彩りの少ない季節は、
かえってまちの姿をくっきりと見せてくれる。



実りの季節。
ゆつくりと変わる空の色と
ほのかに揺れる
黄金色の稲穂。



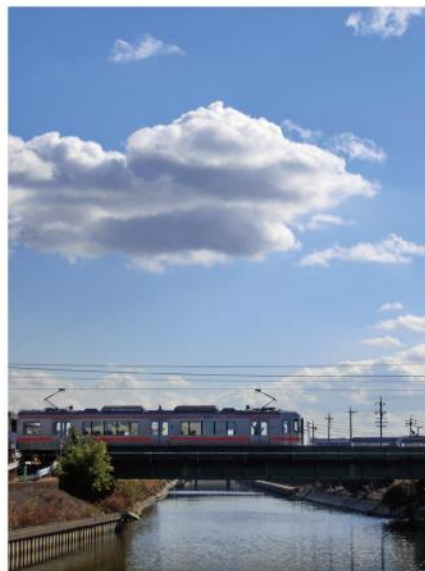
蝉しぐれが聞こえる季節でも、
水辺や神社の木陰に吹くそよ風に、
涼を感じる。



ひらひらと桜の花びらが舞い落ちる中を、
自転車走りぬける。
頬に当る風に、学生時代を思い出した。



川の上を電車の線路が
走っているのも、
蟹江ならではの。
鉄橋をわたる
ガタン、ゴトンという音に
旅情をくすべられる。



水郷のまちだから橋が多い。
それぞれ趣の異なる橋を
巡ってみる。



川沿いを歩くと、
家よりも川の方が
高い位置にあることに気付く。
堤防に上がるための
階段道があちこちにある、
高低差のあるまち並み。



路地の風景

どこか懐かしい雰囲気の小径を見つける。
散策の醍醐味。



初めてなのに懐かしい風景
Discover and experience KANIE.

蟹江には、味のある路地が多い。
川沿いから一本、横道にそれるだけで
新たな発見がある。





蟹江の代表的な夏の風景といえば、須成祭。まちの中心に流れる蟹江川を舞台に水郷のまちを象徴する美しい祭りの情景を見ることが出来ます。神社の縁起書には、戦国時代に織田信長や豊臣秀吉がこの地を訪れ、須成祭についての言葉を残したと書かれており、四百年あまりの歴史があるといわれています。須成祭の中心となる行事は、八月の第一土曜日に開催される「宵祭」とその翌日に行われる「朝祭」。朝祭の翌日には、祭りのご神体として祀られた葭に災厄を託して流す「神葭流し」がおごそかに行われます。そして、行事はその後、十月まで続くことから、別名「百日祭」とも言われています。



朝祭でにぎわう須成神社かいわい
『尾張名所図会附録』富吉天王より

2012年、須成祭の連の行事は「須成祭の車楽船行事と神葭流し」として国指定重要無形民俗文化財となり、2016年には三十三の祭りで構成される「山・鉾・屋台行事」のひとつとしてユネスコ無形文化遺産に登録されました。古式にのっとり人々は手をあわせながら、「百日祭」の行事をとりおこないます。神葭流しに関わる行事もすべて地域の人々の手で。この伝統を守り続ける姿が評価されたのです。



ほかにも、秋には各地で神社の祭りが行われています。蟹江神明社の秋祭り「蟹江祭」は、江戸時代から続く、伝統あるもの。蟹江本町の八つの町内から、屋形やお囃子が神社へと集まり、うち二つの町内では、小学生の女の子たちが踊りながら歩く「道踊り」が華やか。秋は実りの季節。豊かな実りへの感謝として続いてきた地域の祭りを、自転車走らせたり、ゆつくり歩きながら眺めてみるのも心豊かな時間です。

歴史・文化・祭り

蟹江には隠れた歴史が潜んでいる。歴史上の出来事や、偉人、その痕跡。まちを歩きながら想像力を膨らませてみる。伝統文化が息づく祭や神事。いろいろなものに触れることで見えてくるものがたくさんある。



蟹江の祭

Discover and experience KANIE. 13

須成祭が行われる神社。

富吉建速神社・八劔社



〒497-0031 愛知県海部郡蟹江町大字須成字門屋敷上1363番地

須成祭が行われ、そのご神体である霞が祀られる神社でもある、富吉建速神社と八劔社。地元では「須成神社」と呼ばれ、親しまれています。拝殿の奥に並んでいる両社本殿は、向かって右が富吉建速神社、左が八劔社。天平5年に創建、木曾義仲が再建、織田信長が社殿を造営したとされています。富吉建速神社本殿は、三間社流造・桧皮葺、八劔社本殿は、三間社流見世棚造桧皮葺で、それぞれ室町時代の特色をもった建物で国の重要文化財に指定されています。

龍照院

須成神社とともに、奈良時代に行基菩薩が草創したと伝わる寺院。国の重要文化財にも指定されている十一面観音は、木曾義仲が作らせたという説があります。義仲没後、妻の巴御前がこの寺に身を寄せ菩提を求むために大日堂を建てたとのこと。境内には、豊臣秀吉が植えたと言われる樹齢四百年以上の「太閤お手植えの大銀杏」があり、この実を食べると母乳の出が良くなると言い伝えられています。



〒497-0031 愛知県海部郡蟹江町大字須成字門屋敷上1364番地

毎月18日は、十一面観世音菩薩像の公開日。
どなたでも観覧できます。

ここでお金を洗うとご利益があるというパワースポット。

銭洗尾張弁財天富吉神社



神社由緒によると、富吉神社に鎮座する銭洗い弁財の創建は永享年間(1429~41)、北条平八郎時満が蟹江城を築く際、城の鎮守社として鎌倉の銭洗弁財天字賀神の眷属である富吉龍大神を勧請したのが始まりとされています。時満は富吉龍大神に深く帰依し黄金の井戸を造営。その霊水で金銭を洗って福銭とし、蟹江城を築いたとされています。その後、城下町は尾張国固有数の町として発展しました。

昭和39年、池の埋め立てにより現在の地に尾張弁財天富吉神社として祀られています。

〒497-0040 愛知県海部郡蟹江町城四丁目

蟹江神明社



蟹江神明社は、蟹江本町地区の鎮守で、地域の安寧と五穀豊穡を願う神事が春秋行われます。神社の由緒では次のようなことが伝えられています。北条時行が海路で台風に遭った時、暗闇の中、奇跡的に一筋の太陽の光が差したことで一命をとりとめました。これは天照大神のおかげであると尊び敬っていたことから、孫の時任も、蟹江城を築くにあたって、天照大神を祭神として祀り神明社を創建したそうです。

〒497-0040 愛知県海部郡蟹江町城二丁目84

祭礼時には蟹の絵札、お守りの授与があります。



おつけもの若菜

愛知県蟹江町大字蟹江本町字ヤノ割46 TEL.0567-95-3111
営業時間 10時～18時(土曜日は17時まで) 定休日 日曜日
URL <http://www.ginzawakana.com/>



江戸時代に名古屋・納屋橋にあった料亭「得月楼」を前身とする、老舗の漬物屋。
店舗横の自社工場で、保存料や合成着色料を一切使わず、素材の味わいを生かした漬物づくりに励んでいます。

店舗内に並んだ漬物は、とてもカラフルでパッケージもかわいらしく、お土産にぴったり。定番の奈良漬
けから、季節のフルーツを加えた漬物、チーズの味噌漬けや寄せ豆腐まで、豊富に揃っています。



蟹江の味

歴史のあるまちには老舗がある。一方、蟹江はなぜか
元気なパン屋のまちでもある。老舗と新しいお店や名物
があり、また、日々増え続けている。
食べ物がおいしいまちは、やっぱり幸せだと思う。



看板メニューは百円のバゲット。
どこでも、1ユーロ程度でバゲットが
食べられるフランスの街角のパン屋
さんのように、日常にバゲットのある
風景をと、値段を上げずに販売し
続けているそうです。
店内にはナチュラルで温かい雰
気のカフェも併設。
朝一番のモーニングや、ココット
料理が評判のランチを楽しんでから、
まち歩きに出かけるのも良さそうです。



ポンレヴェック

愛知県蟹江町学戸2-38 TEL.0567-96-6646
営業時間 8時～18時 定休日 毎週水曜日
URL <http://pont-leveque.jp/>



近鉄富吉駅すぐの、蔵をイメージした外観がかわいらしい和菓子店。
糖度の高い、蟹江町の白イチジク「ホワイトゼノア」を使った「白いちじくブッセ」が年中購入できます。なめらかな舌触りと強いイチジクの香りは、贈り物にも最適。店内にはカフェスペースも。午後のお茶タイムは、日替わりのお菓子がおまけに付きますよ。

営業時間 8時30分～19時30分 定休日 火曜日

寿屋富吉

愛知県蟹江町富吉1-535 TEL.0567-95-3793



食パンをかたどった店舗とドアノブにキーンとなりながらドアを開けると、パンたちがアート作品のようにスポットライトを浴びています。
「ひとつひとつ丁寧に、おいしく、見た目も良く」とご主人。長時間熟成させて焼く食パンは、もっちり食感と、柔らかな香りがたまりません。
売り切れることも多いので午前中に予約しておいた方が安心だそうです。



営業時間 8時～18時 定休日 第1、3、5土曜日、毎週日曜日

パン工房 SaKuRa -咲良-

愛知県蟹江町本町11-49 TEL.0567-94-2002



子どもの頃、誕生日にワクワクして出かけたケーキ屋さんを思わせるお店。
色とりどりのケーキが並ぶショーケースに、思わず胸が高鳴ります。まず食べてみるべきは、一番右隅にある「パリジャン」。
生クリームをスポンジで包んだこのシンプルケーキは百二十円。季節ごとに登場する「桜のパリジャン」「葉のパリジャン」「チョコのパリジャン」なども食べ比べてみて。

営業時間 年中無休 9時～21時(富吉店は毎週水曜日休) URL <http://www.parisian.co.jp/index.html>

洋菓子 パリジャン

蟹江店 愛知県海部郡蟹江町源氏3-217

TEL.0120-110578

富吉店 愛知県海部郡蟹江町富吉4-102

TEL.0120-006948



(蟹江店)





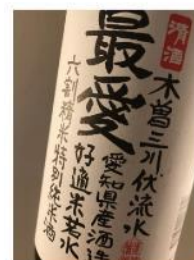
ひと

蟹江は人がいい。道に迷っているときやお祭りのとき、声を掛けられることも多い。出会った人たちは楽しそうで、仕事もあくせくしていないようだ。そんな蟹江で働く人たちに話を聞いてみる。

山田酒造 株式会社 社長

山田真裕さん

山田真裕さんは、蟹江町須成にて明治4年に創業し、特定名称酒だけを生産し続けている蔵元「山田酒造」の5代目。



人気のお酒「最愛」は創業当時に「大江山」という名前が始まり、太正から昭和20年頃まで「最愛」の名で作られていました。戦後「酔泉」になりました。約20年前に酒造組合で愛知県の酒米「若水」で純米酒を作ることになり「最愛」の名前が復活。「最愛」は、このラベルが復元した山田さん「イベントの時なんかは大勢の地元同級生が手伝ってくれるんですよ。ちょっと飲みながら、楽しく、お客さんを迎えてね」と、恥ずかしそうなお話にかみ笑顔がとても素敵。

愛知県のお米「若水」で作る、特別純米酒「最愛」

も、小さな赤いカニがいましてね」と、「海に囲まれて、たくさんカニがいたから蟹江町になった」とも言われるこの町らしい思い出も話してくれました。

玄関軒先の杉玉は、新酒のできあがり知らせる飾り。昔ながらの風情を感じさせてくれます。看板商品は純米酒「最愛」と吟醸酒「酔泉」。



今は全国的に造り酒屋が減ってきていますが、地方の造り酒屋として、元気に続けていきたいですね。

日本酒は季節を問わずに飲めますが、好みによって適した季節があるそうです。「酒は、冬にしほり、春に新酒ができた火入れをして秋まで貯蔵します。出来立てのフルーティな味わいを楽しみたいなら春に、まるやかな熟成した味がお好みなら秋に販売されている出荷したお酒を召し上がってください」とのこと。季節の味をそれぞれ味わうのも楽しいですね。



鉄道主催のまち歩きイベント時には、多くのお客が訪れる人気スポットとしても名を知られている。

イベント当日は、まわりに屋台もでるでお祭りのようなにぎわいに。山田さんの人柄、蟹江町の人の良さにふれる場所ともなっているようだ。

お酒の販売やふるまい、屋台では、さまざまな酒のつまみも食べられる。

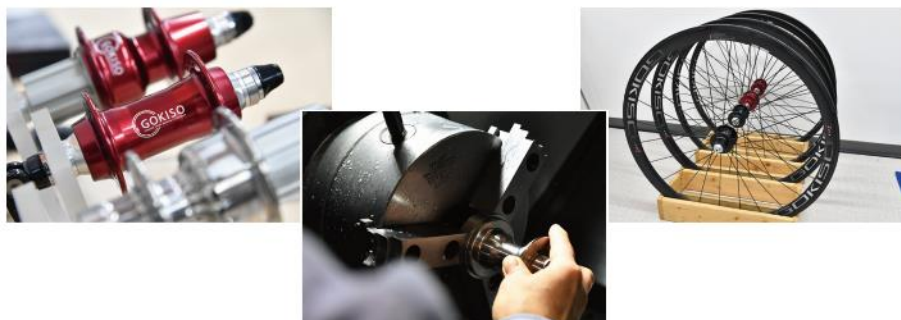
なかでも、自慢の酒からでる酒粕で作ったかりもりの奈良漬は、かりもりも手作り、イベント時にしか手に入らない貴重さが売り。そのために、地元の人も並んでしまふそう。

楽しそうに話す山田さんの笑顔は、ほっこりした蟹江の町によく似合う。

タイミングがよければ、事前申し込みで蔵内見学や、試飲ができることもあるそうです。



〒497-0031
愛知県海部郡蟹江町大字須成1245
TEL.0567-95-2048
URL <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~yamada/kaisyaannaip.htm>



「自転車に乗るようになってから人生が変わりました。腰痛もなくなり、体調も良くなり、今では、休日、夫婦で70キロほど走ったりします。15キロあまりの自宅と会社の間を35分かけて自転車で通っています。雨の日も風の日もね。」

「85キロ以上の人は自転車には乗らないでくださいって注意書きがしてあるんだよね。だからそういった人でも壊れない自転車を作ろうと思うて。」

そう話すのは、株式会社近藤機械製作所の近藤信夫さん、近藤豊さん。冒頭からお二人のお話にひきこまれてしまった。

さらに話は続く。

「蟹江町は、川沿いに道が続いている。道路を整備し、自転車で楽しむ人が増えたら面白い町になるなと思いますよ。」

「名古屋とは全然景色が違うから、店に寄ったり写真を撮ったりしながらのんびり走れるの。自転車は人類が発明した乗り物で一番エネルギー効率がよくて、地球の未来に一番合った乗り物なんです。だから自転車人口が増えてほしいと思っています。」

さまざまな試練を乗り越えた。リーマンショック、東日本震災などで、売上激減のピンチ。

そこから開発が始まったのが、「自転車のハブ（車輪の軸の部分）」でした。当時は、自転車は少しでも軽い方がよいという時代でしたが、私たちは精密な航空機部品を作ってきた技術を活かし、「伝達効率が良ければ、多少重くても速く走れる」という新しい考え方を打ち込んだのです。

新しい考えが受け入れられず、販売当初は苦心した。しかし、「山の神」と呼ばれる自転車ビルクライムレーサーが、そのハブで優勝という結果を出したことが、追い風となり、ピンチと出会いが掛け合わせられ、ビジネスとなっていく。同社が開発したハブを使ったホイールは「GOKISO」と名付けられ、蟹江町から世界に羽ばたいていきます。

「GOKISO」が生まれた蟹江町で、子どもたちが気軽に自転車の練習ができる機会を作ったり、自転車の大会、レンタサイクルイベントなど、何かやっていけたらうれしいですね。健康、人との出会いなど、自転車を通してそんな幸せを生む蟹江町にならいたいと思います。」



「ひと」

会長、社長ともに技術者。昭和22年創業、航空機用エンジンや自動車エンジン向けの精密部品が主力製品。昭和63年に蟹江町舟入に移転。さまざまな、試練をチャンスに変え、今がある。多くの試練からわきでたアイデアは、趣味で乗っていた自転車にその技術を活かすことだった。

株式会社 近藤機械製作所

取締役会長 近藤信夫さん（左）

代表取締役社長 近藤 豊さん（右）



「名古屋・御器所で居を構えていた佐久間家は蟹江町をおさめていたため、佐久間家の家紋が蟹江町の町章になっているんです。」と御器所と蟹江町の不思議なご縁も、大切に考えているお二人。

〒497-0048
愛知県海部郡蟹江町舟入1丁目130番
TEL.0567-95-1343
URL <http://www.kondo-kikai.co.jp>



ゆったりと時間が流れるスローな観光で蟹江を愉しむ。
「愉」という字には和らぐという意味も含まれるそう。
急いでたくさん見て回るのではなくて、その場の空気を
感じて、散歩するような観光で安らいでみよう。

尾張温泉東海センター

〒497-0044 愛知県海部郡蟹江町大字蟹江新田字佐屋川西97
TEL.0567-95-3161

愛知県で唯一、温泉療養
医がすすめる名湯百選にも
選ばれている、治療効果の
高い源泉かけ流しの名湯。
男女とも二五〇人は入れ
るという屋内の大岩風呂の
ほか、露天風呂もあります。
重なり合う岩の風情と
広々とした空間に、自然豊
かな田舎にまで遊びに来た
ような気になつてしまいま
す。



佐屋川養漁場

〒497-0044 愛知県海部郡蟹江町大字蟹江新田字佐屋川西2-1
TEL.0567-95-2279



蟹江を歩いていると、釣り堀をよく見かけます。
釣り糸を垂らし、魚が釣れるのを待ちながら、
ゆっくり、ゆったりと過ぎていく時間。時には
電車の、ガタンゴトンという音を聞きながら、
そんなのんびりした時間を過ごすのも良いかも。

水辺にたたずむレトロな建物

甘強酒造株式会社

〒497-0040 愛知県海部郡蟹江町城四丁目
TEL 0567-951313

蟹江川沿いの薄い黄色のレトロな建物が甘強酒造株式会社。文久2年（1862年）創業。ここは、みりんを主体に多くの酒類を中心とした醸造品を製造しています。

工場の一部は明治時代に建てられたもので、敷地内4棟が文化庁の「登録有形文化財」として登録されています。

最新の機械を取り入れている蔵内でも、感覚が頼りの工程である、みりと粕を分ける作業や、最終の試飲などは、人の手で慎重に行われています。

古い伝統や製法を守りながら、新しい技術を融合させた製品づくりは、今日も川沿いの蔵内で続いています。



佐屋川沿いの桜並木

吉川英治句碑と鹿島神社文学苑を結ぶ散歩道。春の花も美しいが、秋の紅葉も楽しめる。
(蟹江町鹿島地区)



気軽に利用できる
源泉かけ流しの足湯。

足湯 かにえの郷

花菖蒲

蟹江の町の花は「花菖蒲」。
梅雨時には佐屋川創郷公園周辺で満開になります。



桜が散り始める頃、鍋蓋新田地区の善太川左岸堤防二面に浜大根の白い花が満開になります。

善太川沿いの浜大根の花畑

愛知県蟹江町大字西之森字長瀬下65-46
TEL.0567-95-1111 (蟹江町ふるさと振興課)
営業10時～20時

おわりに

蟹江のまちなみ・歴史、なかでも蟹江川沿いの四季折々の美しく、何げない風景を、沢山写真におさめました。

その時々感じたことを書き添えて「まち、川」「歴史・文化・祭り」「蟹江の味」「人」「蟹江を愉しむ」といったチャプターごとにご紹介する冊子としてまとめました。

ほっとする風景、どこか懐かしい風景、水辺のすがすがしさを感じる風景など、心に優しい風景を紹介していくことで、少しでも蟹江で体感できる「ちょっとスローなスタイル」を感じて、行ってみたい、見てみたい、歩いたり、自転車で走ってみたい、そんな気持ちを持っていいただければ幸いです。

では、蟹江でお待ちしています。

蟹江町観光交流センター「祭人」

蟹江町観光交流センターは、須成祭に関する展示を行うミュージアム、物販・カフェスペースなどの機能のほか、貸しスペースも備えております。

※観覧は無料です。

■開館時間 9:00～17:00(最終入館は開館終了時間の30分前)

■休館日 月曜日(祝日の場合は翌日) 年末年始(12月29日～1月3日)

2階 須成祭ミュージアム

2016年にユネスコ無形文化遺産に登録された「須成祭」(「山・鉾・屋台行事」を構成する33の行事のうちの1つ)について、映像技術(バーチャル・リアリティ、プロジェクション・マッピング)を活用した展示や、祭りで使用する道具を展示することにより、須成祭に関する情報を発信します。また、町内で伝承されているその他の祭りや、観光情報等も紹介します。



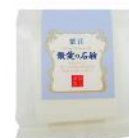
1階 交流スペース

交流センターの利用者が、くつろぎながら交流する場。Wi-Fiフリースポット、新聞、書籍などをご用意し、カフェスペース、祭りにちなんだグッズをはじめ、蟹江町の特産品やオリジナル商品を購入できる物販スペースがあります。



甘強酒造の味麴で作った味噌サイダー

蟹江町ならではのオリジナル商品も多数販売しております。



山田酒造の最愛で作った石饅



尾張温泉の温泉の素



祭人オリジナルてぬぐい



休憩スペース、レンタサイクルもあります。



蟹江町観光交流センター 祭人(さいと)

愛知県海部郡蟹江町大字須成字川西上371番地

TEL.0567-58-3310

URL saito-kanie.jp